

## 女性管理職が語る

# 迷ったら「したい」を優先

保育園に通う子供2人を育てながらフルタイムで働く中、悩み苦しむこともありますが、実はその原因は自分の中の価値観なのだと思います。社

張するなんて大丈夫だろうかと考えていたのですが、いざ日程が決まると悩みが深まりました。米国内で会議が終わるの期も長く、それを乗り越えた今も内なる呪縛のような固定観念を取り払うことができないのです。

一昨年の秋、私の所属部署で全世界の同僚が集まる数年に一度の会議が米国内で開かれることになりました。1週間ほどの日程です。打診があった当初からそんなに長い期間、子供を置いて出

みなかた・みずき 2003年入社。3年間のシンガポール赴任などを経て現職。社内の各事業部・部署に対して法的な観点から助言や提言をする傍ら、社内研修講師なども。2児の母。

本部長  
P&G  
ディレクター  
ジェネラル  
アシスタント  
カウンセラー

南方 瑞紀氏



とこのギャップに悩んだ時は木曜日、同じ週の土曜日が保育園の運動会の日だったので。運動会に間に合うように戻るのは難しく、①会議を欠席する②運動会を諦める③会議を途中で抜けて帰国する――の3つから決断しなければなりません。企業文化があり、行かない決断をしても上司も周囲も理解してくれないとは分かっていました。一方、保育園最後の運動会ではなかったもので、子供たちに寂しい思いをさせることもなく、空港からタクシーを飛ばして運動会に間に合いました。正直、到着したころには疲れ果て、運動会の記憶はあまりないのですが。この時、自分を苦しめてきた「母として子供のイベントには参加しなれない」という自分の価値観で、後悔を何とか回避できず、最後の会議に出た。最後の会議で、自分の幼少期には仕事で忙しい父が来ないことはあっても母は必ずいてくれた。その経験が私の価値観を形成し、自分も同じようにしなければと思えるようになりました。あの時、もし「子供たちを運動会を見たい」という強い思いがあれば、出張を断るのをためらわなかったはずですが、逆に「少しくらい子供に寂しい思いをさせても出張に行きたい」という強い気持ちがあれば、家族に理解してもらえようと思えるようになってきました。

保育園に通う子供2人を育てながらフルタイムで働く中、悩み苦しむこともありますが、実はその原因は自分の中の価値観なのだと思います。社